

(様式2)

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102143		
法人名	社会福祉法人 坂井輪会		
事業所名	グループホーム穂波の里		
所在地	新潟県新潟市西区新通4727		
自己評価作成日	平成28年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成28年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・その人らしさを大切に、入居者の主体性を尊重した支援をしている。
・個々の生活スタイルで暮らして頂けるよう、入居者の心身の状況や生活歴を把握し、趣味・特技・習慣を大切に支援している。
・入居者と近隣のスーパーに出掛け、入居者と献立を考え、出来る限り調理して頂いている。
・身体状態に問題がなく、ご本人が希望されれば毎日入浴して頂ける。
・地域の方々との交流を大切にし、メディア情報など食事やお茶の場の話題にし社会との繋がりに努めている。また、その際に入居者の方が興味を持たれたことは日々の実践に繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員同士のコミュニケーションは密であり、業務の連携もスムーズに取れている。そのため利用者の安全を見守り、必要な支援をさりげなく行うことができています。職員はあえて言葉でのコミュニケーションを多用せず、アイコンタクトにより一人はホールに残り、一人はケアのために居室へ向かうといった対応をしている。

利用者への支援の方針は、身体拘束をしないことは勿論のこと、自立支援の考えを徹底し各利用者の能力を最大限に引き出している。例えば、食事作りの場面ではメニューは概ね決まってはいるもののその場の利用者の意見で一品追加されたり、冷蔵庫の食材の残り具合でメニューが変わったりしている。あくまで「日常生活の一場面」がそこにはあり、それを大事にしている。

看取りに関しては、自立支援を基本としているため積極的には行っていない。しかし、入居希望者には事前にその旨をしっかりと伝え、いざ身体状況が低下した場合には適切な他施設を紹介することを本人や家族には理解を得ている。

このような自立支援を徹底していることにより、利用者は自己選択をして主体的に生き生きとした暮らしを楽しめている。真の意味でアットホームな事業所であり、利用者にとっての生きがいを追及している事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で家庭的な雰囲気を大切にその人らしくお互いを支え合って生活していけるように」という理念を利用者の方が墨書し、玄関に掲示するとともに、管理者と職員はその理念を共有し、毎月の会議でも理念に基づく援助が出来ているかを確認し合い実践につなげている。	まず法人の理念があり、それを受けて事業所の理念を作っている。さらに職員がつくる「援助指針」があり、定期的に見直しや話し合いをしている。入職した時から理念は徹底されており、カンファレンスや事故対応、苦情対応に至るまで、理念に照らし合わせながら事業運営を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が地域の方から三味線や地唄を教わり併設施設と共に盆踊りを行ったり、健康祭りに参加し施設紹介や入居者の作品展示をし地域との交流を図っている。また、日常的な買い物や行事の案内で地域に出向いたり近隣の学校や保育園とも交流の機会を持っている。事業所独自の地域交流会『ほっと！リビング』を1～2ヶ月に1度開催し地域の方や学生ボラ、近隣グループホームとの交流も深めている。	事業所で行われる地域交流会「ほっと！リビング」は地域住民や学生のボランティアの参加を得て定期開催されている。また、地域の方が集まる歌の会に利用者や参加したり、祭りの「お囃子」をする人の高齢化が進んでいるため職員が教わりに行くなどしている。利用者、事業所ともに地域に出向き、地域の方から来ていただくという交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や学生ボランティアの受け入れを積極的に行い、認知症の方々の理解や支援方法を伝えている。地域の認知症ボランティア育成に向け近隣施設と協力し、施設見学や実習生の受け入れに取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、利用者本人、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、ボランティア穂波、区の職員、管理者、職員が出席し、2か月に1回行っている。ホームの現況や行事、日常の取り組みを報告するとともに利用者や参加者の声を聴き、意見交換し、出た意見をサービス向上に活かしている。また、行事予定を玄関に掲示したりきめ細かく会議開催を広報する等で広くアドバイスを頂けるよう努めている。	会議の内容は2ヶ月ごとの運営状況報告が主であるが、参加者からの情報提供の場にもなっており、例えば畑の肥料をもらえるという情報を入手して事業所の菜園づくりに活用するなどしている。会議録には利用者や参加者との会話のやり取りをそのまま載せて、その場の雰囲気がイメージしやすいように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者と一緒に区役所等に出向き、広報誌や行事案内を届け、運営推進会議への協力を呼びかけ交流を図ったり、利用関係者の相談や情報交換をしたり関係づくりに努めている。また、毎月訪問いただく介護相談員にもサービスの実際や取り組み状況を見ていただき協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には区役所の担当者が最初の2回参加し、その後は地域包括支援センターから参加してもらっている。毎月必ず職員と利用者として区役所の担当部署に顔を出しており、区役所担当との関係性も継続している。市の介護相談員の毎月の訪問を利用して利用者が本音を語れる環境を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で年2回委員会を設置し拘束予防に努めている。また、事業所独自でも年1回身体拘束をしないケアについて学習をしているほか、毎月の部署会議でも日々の実践に問題点はないか意見交換をし、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては、センサーマットも拘束ととらえて使用しておらず、利用者や家族に十分に説明している。年2回の勉強会では事業所で蓄積した「不適切と思われるケア」の事例をもとに身体拘束や不適切ケアがないように確認し合っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について事業所内で研修を行い高齢者虐待防止関連法について理解を深め学習し、職員の意識を高め事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人全体の研修に参加するとともに、年に1回事業所内研修を行い、他施設の事例を参考にして振り返りを行い話し合っている。職員のストレスが過剰にならないよう、職員同士がお互いを気にかけて、疲れた表情や雰囲気を察知したら業務を変えるなどの声かけ、助け合いが日常的に行われている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署会議において成年後見制度について学習し理解を深めている。利用者個々において必要に応じて関係者と話し合い成年後見制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明を丁寧に行なっている。利用料金やグループホームで起こり得るリスク、医療連携体制等についても詳しく説明を行ない同意を得ている。利用者や家族等がわからない所や不安な点については、相手の立場に立って将来的な事項を含め疑問等を引き出し、それらに対しても十分な説明を行ない、理解、納得して頂いた上で契約している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から希望や意見を引き出せるよう一つ一つの支援を大切に意識しながら利用者に関わっている。また、利用者が意見や思いを伝えられる場として運営推進委員会に参加して頂いている。玄関に意見箱を設置したり、ご家族には面会や受診等で来園時に利用者の状況報告を行ない質問や相談に応じたり、ご家族の意見や要望を引き出すよう努め運営に反映させている。ご家族懇親会を通じご意見を頂いたり、入居時含め適宜第三者委員の紹介も行なっている	事業所の入り口の目立つところに「ご意見箱」を設置し、いつでも意見が出せる環境を作っている。家族からは面会の際や受診時に意見を引き出すように声をかけたり、家族懇談会の場を活用している。そうした中で、広報誌の文章が多くて読みにくいという意見に対応して写真を多用した内容に変更したり、新人職員の名前が良く分からないといった意見には家族の来訪時にその都度紹介をするなど、具体的な改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署会議の場やカンファレンス時には職員個々が意見や提案を出しやすい雰囲気作りに努め、日常的に口頭で意見を聞いたり、何でも書き込めるノートも用意し、職員の意見や提案を聴く機会を設け反映させている。また、年度末には年間の方針の振り返りと共に、職員の希望や思い、困っていること等を自由に書いて管理者に提出し職員の意見を運営に反映させるようにしている。	月1回の職員会議では、業務改善についての意見交換を行っている。職員が思いついた意見や提案は職員共通の「なんでもノート」を活用して記録しており、また、管理者は職員との普段の雑談の中からも意見を聞く努力をしている。職員からの「有給休暇が取りにくい」といった意見には、希望を聞いて有給休暇をシフトに組み入れるなど運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回、代表者と管理者がミーティングを行ない、職員の勤務状況等を把握し、職場環境等の整備に努めている。また、必要に応じて部署会議に代表者の出席を求め、職場環境や労働条件等についての職員の率直な意見を聞いてもらい、職場環境・条件の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で就業年数が同じ職員同士が切磋琢磨して成長しあえる学習の場を提供している(ディスカッション、他部署研修、実践研修、事例報告等)。また、学習講演会や研修会の開催を知らせ、希望者が参加できる機会を設けている。日々の業務でも気づいたことを声に出し、職員同士の意識向上や高めあい成長しあえる関係作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡会議において地域の事業者同士で会議を通じて繋がりをもち、互いに相談しあえるネットワーク作りをしている。また、研修会に参加し学習するなかで、それぞれの施設状況の様子を話し合ったり意見交換をする等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で生活の様子を聞き取り、本人の思いや要望を確認している。また入所後にはこまめに様子観察をし困っていることや不安なこと、要望等がないか思いを傾聴し、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の説明を丁寧に行い、家族の思いや要望を聞き取っている。また、訪問に来られた際等にも利用者の様子を伝えるとともに施設に対する要望や思いをその都度確認し信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活状況やサービス利用状況、本人家族の要望等を踏まえ、どのような生活を望むのかに合わせた必要とされる支援を見極め提案し了承いただくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、その経験から得た知恵を学ばせていただいたり、家事の方法など培った技術を教わる等、日々の生活で利用者が生活の主体としてその経験や知恵、技術を発揮され誇りをもって暮らされるよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も利用者を支える大切な支援者と考え、利用者の様子や家族に対する思いを面談時など機会を捉え細目に伝えるとともに定期的に書面でも生活の様子を郵送し伝えている。利用者と家族の絆を大切にしながら、受診の対応は基本的に家族にお願いするなど連携とともに利用者を支えていく関係づくりに努めている。	3ヶ月に一度、職員から家族へ近況を知らせる手紙を送るほか、利用者に変化があれば電話や受診時に家族へ直接伝えている。職員から利用者へ働きかけて暑中見舞いや年賀状を家族へ書いてもらう取り組みもあり、家族と利用者の距離感が遠くならないよう努力している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が昔住んでいた場所や馴染み深い場所を訪ねたりドライブするなど機会を捉え支援に努めている。また、先祖の墓参りに個別に出かけたり、利用者の生まれた町の花火大会を全体外出で楽しんで頂く等支援している。	近所の「歌、踊りの会」に毎月参加する利用者には、家族や職員が協力して送迎をしている。ほぼ毎日の買い物ではスーパーの常連客や店員とのなじみの関係が継続できている。また、同法人内のデイサービスを利用している知り合いに会いに行く等の支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々が、得意なことを活かし活躍できるよう配慮し、活躍の様子を日々の会話の中でさりげなく皆さんに伝え、お互いに相手を認め合い尊敬し合えるような雰囲気づくりに努めている。また、入居者同士が助けあったり、相手を気遣いそのことで感謝されたり等では、素敵ですねと称えよりよく入居者同士が関わり合い支え合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人・ご家族の思いを大切に、安心して次のサービスが受けられるように必要に応じて支援に努めている。また、併設施設へ入居された方とはお互い行き来をし、相談しやすい関係に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中で話を聞き表情や様子を観察し思いを探り、常に意向を汲み取るように努めている。介護計画作成に当っては、改めてご本人に確認している。	各利用者の担当職員が日々の関わりの中で本人の変化や希望などを把握するように努めている。担当職員が日々の情報を集約し、計画作成担当者と連携して介護計画に活かしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人・ご家族・入居前のサービス支援者からお聞きし把握に努め、バックグラウンドアセスメントを作成し、職員間で情報共有している。日々の中でも意識的に会話が探れるよう工夫している。個別の担当職員が定期的にシートの更新を行い情報共有にも努めている。	事業所独自の様式の「バックグラウンドアセスメント」を用いてこれまでの暮らしの把握に努めている。新たに得た情報は追記して随時更新しており、利用者に関する情報は日々蓄積されている。職員はこのアセスメントシートを確認しながら日々の支援を行う仕組みができています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日入居者一人ひとりの記録をつけ、職員が情報を共有できるようにし、心身状態やどのように過ごされているか等把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご本人・ご家族の意見をお聞きするように努めその事を加味し月一回モニタリングしている。介護計画作成時には改めて、ご本人・ご家族の意向を伺い、アセスメントを行い介護計画案を作成し、カンファレンスにて検討している	日々の関わりの中で表出した本人の気持ちや意向もふまえて、毎月の会議でカンファレンスを行い、職員全員参加で介護計画を作成している。家族が来訪した際に具体的に説明し意見を求めることを前提としているが、難しい時は電話で工夫をしながら意見を引き出すように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人一人の記録をつけ職員が情報共有できるようにし、会議等で意見や提案を出し合い実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ、往診の利用導入や受診の付き添い、訪問理容への切り替え、お盆のお墓参り等、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と相談し近隣のスーパーで生活に必要な消耗品や毎日の食材などを購入したり、大型スーパーで衣類など楽しみながら購入されている。ご本人の希望によりパーマを掛けに馴染みの美容院に行かれたり、訪問美容も利用されている。地域の保育園と交流したり学生ボランティアと一緒に歌やお菓子作りを楽しんでいる。定期的ホームでお茶会を開き、地域の大学や専門学校を通じて学生ボランティアの協力を得ながら、地元のお客様をお招きし持て成している。地域の施設とも広報誌や招待状のやり取りを通じて交流している。また、利用者と共に広報誌や運営推進委員会の報告書を手渡しに出向く事で、区役所との繋がりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が馴染みの医師による継続的な医療が受けられるよう、入居前からのかかりつけ医への受診を基本とし、受診対応はご家族が行っている。受診に必要な利用者の情報をご家族に伝えると共に、利用者の状況が医師に分かり易く伝わる様、必要に応じて書面を用意したり職員も一緒に同行している。家族の協力が難しい場合は事業所で対応をしたり、また、協力医療機関に往診をお願いするなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	以前からのかかりつけ医を大事にして事業所の協力医への変更は促しておらず、変更する場合は慎重に判断してもらっている。協力医は状況に応じて往診や夜間の対応もしてくれるなど、連携が取れている。かかりつけ医への受診の際は近況を伝える情報提供書を家族に託したり、状況によっては職員が受診に付き添う場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師に利用者の病状を伝え、必要に応じて相談しアドバイスを受けている。また、必要に応じて電話で医療機関に連絡し、看護師を通じて医療関係者のアドバイスを受けている。利用者の体調や些細な変化を見逃さず、気付いた状態変化はかかりつけ医に相談しながら医療支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提出している。出来る限り病院へ向向き、利用者の状態に応じて看護師やケースワーカーと連携を取り、退院に向けて相談している。また、ご家族を通して情報をお伝えすると共に、必要に応じて電話で相談し、ご家族ご本人が安心して退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況に応じてご本人の思いを探り、家族と話し合いを行いご家族の意向確認をしている。事業所ができる事やできない事を説明し、場合によってはその方に合った所を紹介したり手続きの支援を行っている。	事業所の基本的な考え方は「自立支援」であり、契約前に本人や家族へ積極的に看取りまでの対応は行わないことを伝えている。身体状況が低下した方でも、できる限り対応を継続しつつ、家族の意向確認を行って今後の方向性を話し合い、双方の理解のもとで他施設への移行等を支援している。支援をする際は協力医とも連携して入院などの医療的判断を随時仰いでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月ヒヤリハットや事故発生時の要因について討議し、事故防止に取り組んでいる。AEDの使用法や心肺蘇生法についての救命救急士指導のDVDで学習し、対応マニュアルに基づき全職員で事故発生時の初期対応のシュミレーション訓練を行っている。より具体的な訓練が出来るよう、グループホーム独自の緊急時対応DVDも作成した。普段と違う食事の際は見守り体制を整え、急変時の対応についてその都度確認している。	年に1回必ず全職員がAEDの使用法と心肺蘇生法の研修を受講している。特に誤嚥や窒息の対応については実際に対応する様子をシュミレーションしたDVDを作成し、職員がいつでも見て学べる体制を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回昼間と夜間を想定し、法人全体での避難訓練を行い、地域の方々の協力が得られる体制が整っている。ホームと棟続きの他部署合同の避難訓練も行っている。防災機器取扱の学習会を行い、設備確認、消火期等の使い方などの訓練も定期的に行っている。また、災害時の地域の避難場所としての役割も担っている。	併設のケアハウスと連携して防災対策をとっており、備蓄の準備や避難訓練は共同で行っている。水害や土砂災害の危険のない地域性であるため「地震」と「火災」の対応に力を入れ、職員が手薄になる夜間帯を想定した避難訓練を行っている。避難訓練には近隣住民が毎回参加し、また、隣接の法人の対策本部では災害時のボランティアが確に行動できるように役割分担などの準備を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は認知症ケアに関する研修を行い、利用者の尊厳やプライバシーを損ねない会話や対応を心掛けている。言葉遣いや支援方法等を定例会議で振り返り、日頃から職員同士で話し合いを持ち実践に努めている。個別支援では必要以上の援助を行わず見守らせて頂く事で、利用者が誇りと尊厳を持ち生き生きと生活出来るような対応をしている。記録物は施錠管理し、利用者や第三者のいる場面で個人情報飛び交わないようプライバシーの確保を徹底している。	「できることを奪わない」という考え方で、排泄介助や入浴介助などは最小限の支援にとどめている。排泄についてはたとえ失敗しても本人がそれを処理できるのであれば必要以上に支援をせず、また、利用者によっては入浴時に脱衣場から遠目で見守る支援を行っている。認知症ケアの外部研修に参加した職員が全職員に伝達して知識や対応方法の共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の「～したい」に焦点を当てた支援を行い、自己決定を促すような声掛けを行っている。思いや希望が表しにくい利用者には個別に傾聴する場を設けたり、職員の方から訪室しコミュニケーションを深めたり、日々会話の中の何気ない利用者の言葉を大切に、本音を表しやすい環境を作り一人一人の希望の把握と実現に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の一人一人のペースを大事にし、可能な限り希望に沿って支援できるよう努めている。本人の日課や行動のパターンから、希望や行動を決めつけ抑制するような言葉遣い、立ち位置、接し方とならぬよう、その人らしく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを大切に日々の援助や会話から好みを探り、洋服選びや化粧品、マニキュア等おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。爪切りや髭剃りなど身だしなみに配慮し声掛け支援している。気軽に衣類や化粧品など、本人好みの物を購入できるよう外出支援している。定期的に行きつけの美容院または訪問美容でカットやパーマ、毛染めをして、その人らしいおしゃれをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は詳細までは決めず、その日の冷蔵庫の中にある食材や家庭菜園の収穫物、頂き物など旬を大切に季節を感じ、相談しメニューを決めている。職員は補佐に徹し一人ひとりの経験や得意な事、性格を踏まえ調理・味付け・盛り付け、お茶入れ等、一緒に協力し合って食事準備や後片付けをしている。郷土料理など個人の趣向や思い出に沿えるよう努めている。食事が終わった後もその場でお茶を飲みながら会話が広がり楽しいひと時となっている。	毎日利用者も一緒に食材の買い物に出かけており、その場で食材を選びながらメニューが決まることも多い。当たり前のよう利用者主体となっ食事の準備をしており、新人職員が何でもやろうとすると利用者からたしなめられることもある。時には味付けや調理方法などのこだわりで利用者同士のトラブルになりかけることもあるが、職員がうまく間に入り回避している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の献立、使用した食材、利用者個人の食事・水分の摂取量を記録し、一日のトータル栄養バランスや利用者の状態に配慮し量や硬さ、食べやすさ等を工夫している。利用者の病気や内服薬に合わせた食材の検討、代替食、補食を用意し、病気に有効とされる情報を取り入れ支援している。また、同法人の栄養士にアドバイスを貰っている。常時麦茶を用意し、利用者が自由に飲めるよう配慮している。水分摂取量が少ない方には、一日通じて確保できるよう利用者に応じて適切な促しを行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促すポスターを貼ったり、日々の会話の中で毎食後の口腔ケアの大切さを利用者に伝えている。必要に応じて歯磨きをや義歯の洗浄・消毒・装着を促し支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使い入居者一人一人の排泄パターンを把握し支援している。声掛けは必要最低限にし、状況に応じてトイレ誘導行っている。また、排泄量の確認を職員同士で行い、必要に応じて水分摂取の促しや便秘薬の調整を行い失敗を減らし気分良く排泄できるよう努めている。昼夜でオムツの種類を変え、その方に合った形態を探り使用勧めている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握しえている。トイレ誘導はあからさまに誘うのではなく、話の流れから自然に誘ったり、本人が椅子から立ち上がったタイミングに声をかけるなど工夫をしている。自立を促す支援・対応により、自分の判断でトイレへ行けるようになったり、リハビリパンツから布のパンツへと改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行っている。日常でも散歩や園芸、買物など体を動かす機会を設けている。毎食事、水分摂取を促し十分取って頂けるよう促している。食事のメニューを記録しバランスの取れた食事を心がけ、便秘予防に努めている。便秘状況を把握し主治医に相談して便秘薬を調整し排便コントロールをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日でも可能であり、入居者一人一人の希望に沿って対応している。時間帯は夕方に幅を持たせており、希望に応じている。入浴を好まない入居者に対しては声掛け対応を工夫しスムーズに入浴に繋がった時の対応を職員で共有し気持ち良く入浴できるように支援している。季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯など入浴を楽しんで頂いている。	特に入浴の曜日を決めておらず、利用者それぞれの希望やその場の雰囲気にあわせて入浴ができる環境にしている。利用者の健康状況を見ながら入浴可否の判断を行ったり、洗髪や立ち座りのサポートなど必要に応じて介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のペースで休憩や就寝して頂いている。使い慣れた寝具を使われたり、寛げる空間作りに努めている。不安な訴えが聞かれる時は傾聴し声掛けや付き添い等安心して眠れるよう支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族や医療機関と連携し入居者の状況把握に努めている。服薬はお一人ずつケースを用意し、薬ファイルと合わせて薬の内容確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を把握して、力仕事などの能力や、料理や野菜作り、歌、書道、裁縫等、得意な事や経験、知識が発揮でき、入居者一人一人に合った役割や張り合い、楽しみが持てるように支援している。入居者と相談して外食や歌の会、ドライブやボランティア受け入れ等、外出や地域との交流を図ることで、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	周辺の散歩や食材の買い物等、日常的に出掛けしている。季節に応じて弥彦神社や花見、花火見物、果物狩りなどは入居者と相談しホーム全体で出かける機会も持っている。入居者各人の希望に沿った外出や、ご家族の協力による外出など個別の支援も行っている。	毎日のように行く食材買い出しの帰り道に、思い立ってドライブに行ったりすることもある。弁当を作って近所の公園へピクニックに行ったり、テレビを見て行きたい場所を思いついて出かけるなど、事前の計画がなくても柔軟に外出をしている。家族と一緒に外泊したり、食事に出かけることも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に配慮し、ご自身の馴染みの財布でお金を所持、管理している。利用者の能力に応じて買い物時にお金を使えるよう、財布から支払う支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの宅配に利用者が自ら電話しお礼が言えるよう支援している。遠方在住の親戚や友人、兄弟にいつでも気兼ねなく電話のやり取りが出来るよう話しやすい雰囲気作りを行い、交流を支援している。家族や親戚、友人からの手紙類はご本人にお渡しし希望があれば返事が出せる事を伝えている。年賀状を出したい希望があれば12月から準備し書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は利用者が描いた絵画や書、思い出の写真、季節感のある飾り付けを工夫している。リビングダイニングは暖色系の照明で落ち着ける雰囲気であり、食事テーブルやソファは家庭的な物を使用してゆったりと寛げる空間がある。大きな窓からは自然豊かな山々の美しい景色が見渡せ、利用者が育てている野菜や花、干し柿を眺める事が出来る。浴室は暖房設備があり家に居るかのような安らぎの中、季節ごとに入浴剤や果物の皮などを入れて楽しめるよう工夫している。	リビングの壁には利用者が協力して作ったちぎり絵の風景画が飾られており、窓の外には利用者が作った干し柿が風に揺られている。勝手口の外には小さいながらも家庭菜園があり、みんなで作物を育てている。利用者の主体性を大切にし、時間にとらわれる支援はせず、職員同士はアイコンタクトでそれぞれの動きを確認しあっている。室内の湿度、温度、採光に至るまで行き届いた配慮があり、家庭的な雰囲気が醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内はソファ席だけでなく、畳の小上がり、座布団や椅子などがあり利用者は独り、または気の合った方同士、それぞれで寛いでいる。廊下でも椿園が見えるソファや玄関椅子、ホールから見える景色、台所や洗濯場のちょっとした椅子など共有空間の中にも利用者ごとに居心地の良い場所があり、思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳とフローリングがあり、生活習慣に応じ対応している。タンスやテーブル、テレビ等の家具類はなるべく使い慣れた物を持ち込み、利用者や家族と相談し希望に沿って配慮し居心地良く過ごせる環境作りを支援している。植物を育てたり、日中お茶やお菓子を楽しんだり、利用者それぞれの個性豊かな居室となっている。持ち込みの品の少ない利用者には、好みの写真やメッセージカードを飾るなど工夫し安らげる空間の中、落ち着いて過ごせるよう努めている。	居室に以前の生活で使い慣れた家財道具を持ち込んでいる方もあれば、あっさりした室内空間で暮らしている方もいる。職員は無理強いはいしないが、植物の世話が好きな方にはちょっとした緑の草花を自室に置いてみるように働きかけるなどしている。また、仏壇にお茶をお供えする習慣のある方には、他利用者や職員が居室にお邪魔して一緒にお茶を飲ませてもらうような関係作りも支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者や家族と相談して居室の入口に飾りを付けたり、見やすい表札を設置して自身の居室が分かり易いよう工夫している。トイレの場所を明記したり、洗濯場や浴室にのれんを付け目印としたり、利用者が分かり易い配慮をしている。また洗濯機や電気ポットに操作しやすいようにシールを貼っている。台所の収納庫にも調味料、包丁、鍋、布巾等シールを貼る事で自立した生活が送れるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				